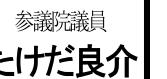




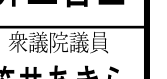
市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



衆議院議員
藤野保史



参議院議員
たけだ良介



参議院議員
井上哲士

衆議院議員
笠井あきら
禁断転載
複写配布

2019年度決算

増え続ける市債

市債発行額(市が1年間にした借金)が2018年度には前年(17年度)の14.7億円から30.2億円へ、19年度にも31.8億円となりました。その結果、市債残高は180億円へ急増しました(表とグラフ参照)。

増え続ける市債(市の借金)の推移 単位 千円

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
市債	1,302,700	1,136,000	1,473,500	3,028,200	3,181,400
公債費	1,315,675	1,304,159	1,323,029	1,339,683	1,376,021



急増した市債残高 単位 億円

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
市債残高	140.9	140.5	143.1	163.2	182.3



財政悪化の原因を探る

総合計画にもなかつた 統合こども園建設

18年度の市債発行額の内、2つの統合こども園建設の市債が8億5670万円、石動駅整備に8億5540万円です。19年度は2つの統合こども園に15億3240万円、新図書館建設に3億7690万円、石動コミュニティプラザ建設に1億8780万円の借金をしました。必要な公共投資に市債を発行し、将来世代の人がこれを使い続けるために一定の負担を求めることはあり得ることです。

しかし、2つの統合こども園建設はもともと総合計画にも載っていないものを急ぎ押し込んだもので、統合こども園建設による借金は2年間で約24億円近くです。市債残高急増の原因となりました。

使えるのに廃止された保育所 国へ812万円の補助金返還

統合された7保育所はそのまま何年も使い続けられる施設でした。それを無理やり統廃合したために、市は国(農林水産省)に812万円の林業再生事業補助金を返還しなければならなくなりました(今年6月23日に返還)。2011年度に北蟹谷保育所、東蟹谷保育所、正得保育所、荒川保育所、若林保育所において農水省の補助金で内装に木材を活用する工事を実施しました。耐用年数が20年前後あるものをわずか9年で廃止したために補助金返還となったものです。さらに旧保育所を民間に有償で売却した場合にも国への補助金返還(推定1800万円前後)が問題になる可能性があります。

国の号令で統廃合 税金の無駄づかいではないか

国が号令をかけて公共施設の統廃合を推進しましたが、市民の税金で作ってきた重要な施設が、十分に使えるのに廃止されるという事態が起きています。その典型がおとぎの館図書室です。城山まちなかトイレでは国から補助金返還が求められ、2019年6月20日に44万9千円を返しました。

財政再建には 「人への投資」こそ

使える公共施設は有効活用し続けながら、教育環境の拡充・少人数学級の実現や、新型コロナ対策など、働く人への投資で内需を拡大し、地域循環型経済をめざすべきではないでしょうか。

ボランティア活動で培った経験をもとに新人で女性の方が訴えておられることが一番びっくりするのではないのでしょうか。

悪化する財政 健全化指数

小矢部市は県内で最悪

地方自治体の財政の健全化を見る指数に実質公債費比率と将来負担比率があります。いずれも小矢部市は県内最悪の状態になっています(表とグラフ参照)。

悪化する財政健全化指数の推移 単位 %

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
実質公債費比率	14.3	14.7	15.1	15.1	15.2
将来負担比率	164.4	157.2	166.2	174.4	192.6

